

コントロール調整（炎長の調整）

注意1、調整中にタンク部は出来るだけ触らないで下さい。

注意2、コントロールレバーで炎が上下しない場合は
弊社までお送り下さい。

注意3、調整時は室温に充分注意して下さい。

（調整温度で暫らく放置してから作業を始めて下さい。）

炎調整の基準

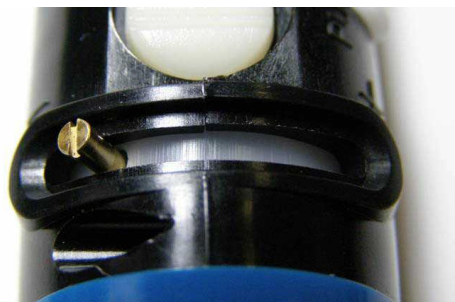
G1400Ⅱガスこてはコントロールレバーを中央位置にした時に火口先端部から炎最上部までの長さが7～8ミリの間に調整されています。

（室温20～25℃）

金属スケールにて計測してこの炎長に調整して下さい

炎長が基準外の場合の処置

	<p>写真の様に金属スケールで 炎長を確認します</p>
	<p>まずコントロールレバー カバーを取り外します。</p>
	<p>炎長が7～8ミリになる様に コントロールレバーで 調整します。</p>



炎長が7～8ミリの範囲に
コントロールレバーを
スライドさせます。



レバーピンが動かない様に
注意してマイナスドライバーで
反時計回りにネジを緩めます。



ネジが緩んだらレバーピンを
センター位置にします。



センター位置で時計回りに
ネジを閉めます。
再度、炎長を確認して下さい。



コントロールレバーカバーを
付けて調整は終了です。

G1400Ⅱ ガスこて

こんな時どうする？

Q1 着火しないのですが

A1 イレクターユニットが破損・ガスのつまり(ガスが吐出しない)の場合、着火はしませんので下記の事項を確認し該当しましたらイレクターユニットを交換してください。(P4 参照)



A2 ガスは吐出するが着火しない場合、コントロールバ-を調整してご使用ください。

暑い時期はコントロールバ- 3 から左側

寒い時期はコントロールバ- 3 から右側に動かしてください。

A3 コントロールバ-を調整しても着火しない場合はご購入された販売店にご連絡ください。

Q2 着火はするが温度が上がらないのですが

A1 燃焼室を確認し、変色や触媒の脱落が見られた場合は燃焼室を交換してください。(P5 参照)

燃焼室内部の触媒が欠損・脱落すると発熱せずそのまま使用すると故障の原因にもなります。また必要以上に温度を上げると万先の変形・触媒の消耗が早まります。コントロールバ-で作業の適温にセ-トしてご使用ください。

Q3 タンク周りより異音がある

A1 ガスタンクまたはハウジング周りからガスが漏れている場合は危険です。

使用をせずガスを完全に抜きご購入された販売店にご連絡ください。

エゼクターユニットの交換方法

G1400 II ガスこての中で最も重要な部品の1つ、ブタガスと空気を混ぜて混合ガスを作り高温の炎を作る部品。交換用の予備を携帯しておくことをお勧めします。



① 燃烧室と本体を固定するローレットキャップを回し取り外します。

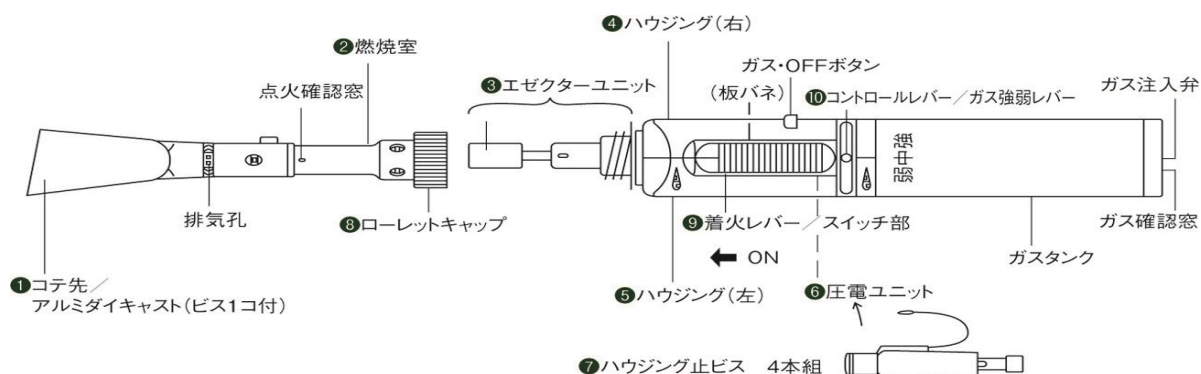


② エゼクターユニットの空気取り入れ孔に六角レンチもしくは細いドライバーを差し込み反時計回りに回すと外せます。



③ 新しいエゼクターユニットを時計回りに回してしっかりと取り付け、①で取り外した燃烧室を本体に取り付けます。

G1400 II 展開図



燃烧室の交換方法

先端に触媒があり無炎での安定した酸化反応熱を供給する部品。触媒の寿命がそのまま燃烧室の寿命となります。

	<p>① コテ先を固定しているビスを1.5mmの六角レンチを使用して外します。</p> <p>長期使用した場合、熱でコテ先と密着している場合がありますので一度コテ先を温めてから行うと外せます。またビスの紛失には十分注意してください。</p>
	<p>② コテ先が外れたらローレットキャップを反時計回りに回して外すと燃烧室が外れます。</p> <p>① で温めた場合は十分冷ましてから作業してください。</p>
	<p>③ 燃烧室を交換し②①の順で本体へ取り付けます。</p>

G1400 II 展開図

